

授業科目	* 助産診断・ケア学Ⅱ(分娩期)				単位	1		
履修	必修	関連資格			ナンバリング	MI21202J		
開講年次	1	開講時期	前期	該当DP	DP1-1 DP2-1 DP3-1 DP4-1 DP5-1			
担当教員	前田 幸、山田 恵、新郷 朋香							
授業概要	分娩期の助産診断のためのフィジカルアセスメント及び産婦と家族の心理・社会的側面からケアに必要な知識を解説し、演習により安全・安楽をふまえた助産技術の習得ができるよう支援する。							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 産婦のケアに必要な基礎的知識について説明できる。 産婦の健康状態を正常および正常からの逸脱について根拠に基づき説明できる。 産婦に必要なケアの習得において主体的に取り組むことができる。 倫理観をもち産婦のケアを安全・安楽に基づき実施できる。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	60	15	0	15	5	5	100	
知識・理解 (DP1-1)	25	15					40	
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)	35			5	5		45	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)				5			5	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)						5	5	
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)				5			5	
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
標準的なレベル 1～4 の全てを達成したうえで、知識に関してはより詳細な説明ができる。技術・態度に関しては習得した知識を技術・態度に応用することができる。				<ol style="list-style-type: none"> 産婦のケアに必要な基礎的知識について説明できる。 産婦の健康状態を正常および正常からの逸脱について根拠に基づき説明できる。 産婦に必要なケアの習得において主体的に取り組むことができる。 倫理観をもち産婦のケアを安全・安楽に基づき実施できる。 				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法	学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)	

1	<p>テーマ:産婦の健康診査(前田幸)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診察技術の概要と方法について解説する。 ・分娩経過における母子の健康診査に必要な処置や検査について解説する。 	講義 小テスト	<p>予習:提示された事前学習を行う</p> <p>母性看護学で学習した内容を見直しておく</p> <p>復習:該当部分をまとめる</p>	120
2	<p>テーマ:分娩期の経過診断(1)(前田幸)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩開始の診断と対応について解説する。 ・分娩の3要素を中心に分娩の経過および母子の健康診断について解説する。 	講義	<p>予習:テーマ・講義内容に関する部分のテキストを読んでおく</p> <p>復習:該当部分をまとめる</p>	60
3	<p>テーマ:分娩期の経過診断(2)(前田幸)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩の3要素を中心に分娩の経過および母子の健康診断について解説する。 	講義	<p>予習:テーマ・講義内容に関する部分のテキストを読んでおく</p> <p>復習:該当部分をまとめる</p>	60
4	<p>テーマ:分娩期の産婦の支援(1)(前田幸)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩経過に沿った産婦及び家族の支援について解説する。 	講義 小テスト	<p>予習:テーマ・講義内容に関する部分のテキストを読んでおく</p> <p>復習:該当部分をまとめる</p>	60
5	<p>テーマ:分娩期の助産技術(1)(前田幸)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩介助法 <p>分娩の意義および原理、分娩介助技術の方法について解説する。</p>	講義	<p>予習:テーマ・講義内容に関する部分のテキストを読んでおく</p> <p>復習:該当部分の復習</p> <p>分娩介助手順・資料を読んでおく</p>	60
6	<p>テーマ:分娩期の経過診断(3)(前田幸)</p> <p>演習①</p> <p>CTGの判読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を用いてCTGの判読演習を行う。 	講義 演習 小テスト	<p>予習:提示された課題を行う</p> <p>復習:該当部分の復習</p>	60
7	<p>テーマ:産婦の支援(2)(前田幸、山田恵、新郷朋香他)</p> <p>演習②</p> <p>CTGモニター装着、産痛緩和、呼吸法、内診、胎盤計測、出生直後の児の観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩第1期から第4期産婦の支援方法についてデモンストレーションを交え解説、演習を行う。 	講義 演習	<p>予習:演習内容について根拠や手順などを事前学習する</p> <p>復習:該当部分の復習</p>	60
8	<p>テーマ:産婦の支援(3)(前田幸、山田恵、新郷朋香他)</p> <p>同上</p>	演習	同上	同上
9	<p>テーマ:分娩期の助産技術(2)(前田幸、山田恵、新郷朋香他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩期に取り扱う記録について解説する。 <p>演習③</p> <p>パルトグラム・助産録の記載方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩期に扱う記録について実際にパルトグラムを記載しながら演習を行う。 	講義 演習③	<p>予習:テーマ・講義内容に関する部分のテキストを読んでおく</p> <p>事前に配布した記録用紙の内容の確認</p> <p>分娩経過の復習</p> <p>復習:該当部分のやり直し、まとめを行う</p>	60
10	<p>テーマ:分娩期の助産技術(3)(前田幸、山田恵、新郷朋香他)</p> <p>同上</p>	演習	同上	同上
11	<p>テーマ:産婦の支援(4)(前田幸、山田恵、新郷朋香他)</p> <p>演習④</p> <p>分娩介助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩介助について解説を交えながらのデモンストレーションを交え解説する。 <p>産婦、直接介助者、間接介助者の役割を理解し演習を行う。</p>	演習	<p>予習:分娩介助手順を読んでおく</p> <p>復習:各自課題を踏まえ、練習を行う</p>	180

12	<p>テーマ:分娩期の助産技術(4) (前田幸、山田恵、新郷朋香他) 演習⑤ 分娩期のケア ・事例を用いて分娩介助の方法、産婦の支援について情報収集、アセスメントを行い、記録を行う。ディスカッションを行い、学びや気づきを共有し、レポートにまとめる。</p>	演習	<p>予習:分娩経過の復習、技術練習をして臨む 復習:課題を理解し、復習(自己練習)する</p>	120
13	<p>テーマ:分娩期の助産技術(5) (前田幸、山田恵、新郷朋香他) 同上</p>	演習	同上	同上
14	<p>テーマ:分娩期の助産技術(6) (外部講師) ・フリースタイル分娩の介助技術について解説する。</p>	講義	<p>予習:テーマ・講義内容に関しテキストを読んでおく。 復習:該当部分のまとめを行う。</p>	60
15	<p>テーマ:分娩期の助産技術(7) (外部講師) 演習⑥ フリースタイル分娩介助 ・講師の助言をもとにフリースタイル分娩の介助について演習を行う。</p>	演習	<p>予習:テーマ・講義内容に関しテキストを読んでおく。 復習:該当部分のまとめを行う。</p>	60
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	母性看護学に関する知識と看護技術について復習しておいてください。			
テキスト	<p>我部山キヨ子他編:助産学講座 6 助産診断・技術学[2]分娩期・産褥期、医学書院 町浦美智子他編:助産師基礎教育テキスト第 5 巻 分娩期の診断とケア、日本看護協会出版 上田森生他:病気が見える Vol.10 第 4 版、MEDIC MEDICA 石村由利子編:根拠と事故防止からみた母性看護技術</p>			

	産婦人科診療ガイドライン 産科編 2020 発行:日本産婦人科学会 編集・監修:日本産婦人科学会/日本産婦人科医会
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	科学的根拠にもとづく快適で安全な妊娠出産のためのガイドライン 2013 厚生労働科学研究妊娠出産ガイドライン班 金原出版株式会社 エビデンスに基づく助産ガイドライン-妊娠期・分娩期・産褥期 2020 一般社団法人日本助産学会ガイドライン委員会 日本助産学会 助産業務ガイドライン 2019 日本助産師会助産業務ガイドライン改訂検討特別委員会 北川真理子他編:今日の助産 マタニティサイクルの助産診断 南江堂 戸田律子訳:WHO の 59 か条お産のケア実践ガイド 農文協 他、指定図書も参考にしてください、必要に応じて資料を配布します。
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	講義で得た知識や助産技術の方法を演習を通して実施します。そのため、知識はもちろん正しい技術の習得や助産師としての態度を身につけるために助産診断・ケア学Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵと関連づけて学習し、予習・復習をして授業に臨んで下さい。 技術の習得をするために、練習時間をとりますので各自、技術練習に励んでください。 演習では、身だしなみを整えて臨み、模型などの教材は丁寧な取り扱いを心がけましょう。 準備・後片付けも自主的に行いましょう。 感染対策に留意した行動をとりましょう。
達成度評価に関するコメント	評価は、小テスト、定期試験、レポートや課題についての内容、その他としてディスカッションへの参加・発表状況など総合して行います。 なお、講義中の記録物、態度やレポートの提出期限も評価項目とします。 また、再試験は筆記試験にて評価します。